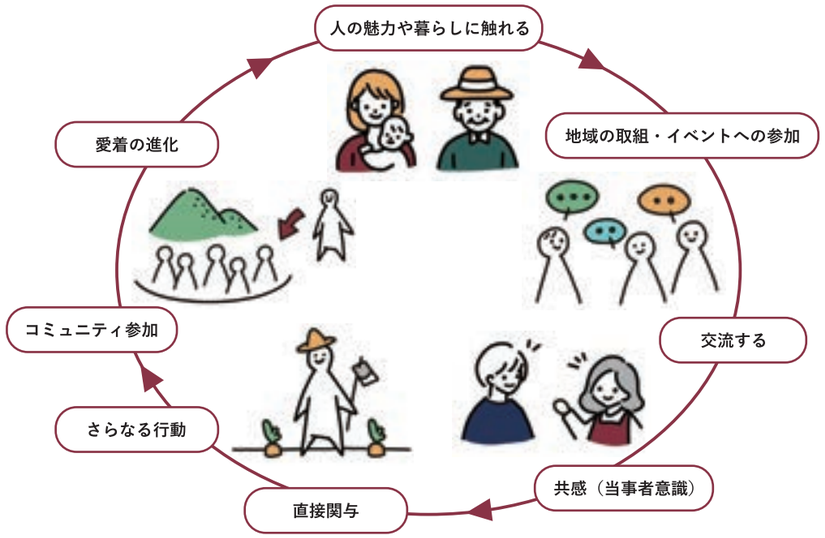
滞在交流型観光へ

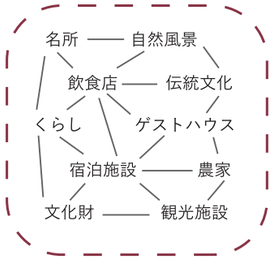
地域の課題解決に取り組む「人」を起点に、来訪者の地域コミュニティへの愛着が育つ循環「滞在交流型観光」を目指します。
来訪者は地域に滞在し、文化や暮らしを感じられるプログラムに参加するなかで、地域の人々との交流を通じて当事者意識を醸成していきます。
それは直接関与やさらなる行動、そして地域コミュニティへの参加につながり、来訪者は地域に愛着を持つコアファンになっていきます。



観光地域づくりへ

人口減少時代においては、地域に魅力を感じてリピートするファンになってもらうための観光スタイルが必要です。観光施設やイベントに訪れる客だけではなく、ビジネス利用も含めた全ての来訪者を観光客と捉え直します。観光施設を見るだけの「観光地づくり」では波及効果が少ないため、地域の人との交流、暮らしの体験、非日常体験を目的とした**「観光地域づくり」**への展開を目指します。
近年の地方創生の流れや新型コロナウイルス感染症によってトレンドが変化しました。**関係人口**の概念を媒介として、観光（交流人口）と移住（定住人口）の取り組みを、一連の流れとみる新たなアプローチを行います。

観光地域づくり



- 文化、交流、通年
- 地域全体に関わる、感じる
- 地域全体が潤う

一連の流れとして一体的にアプローチ

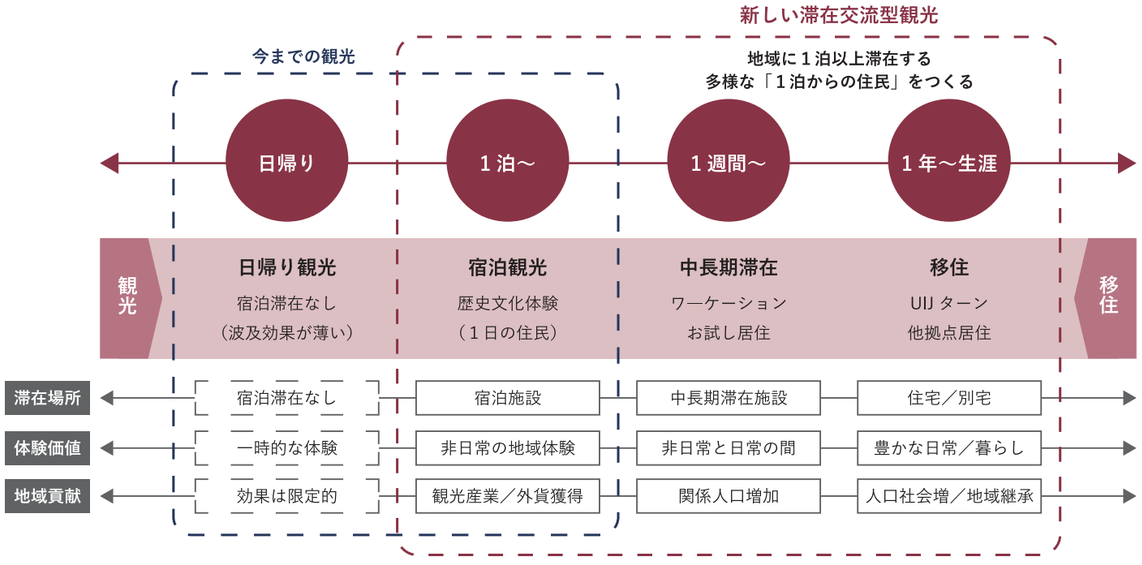
観光人口　関係人口　移住人口

低 ←→ 高
地域との関与の強さ

観光　地域や人との関わりを目的とした「何度も地域に通う旅、帰る旅」の潜在的需要の可能性

移住　移住者ではない地域や人に関わる関係人口が実際に移り住み、地域の活性化に寄与する可能性

豊かな日常を観光の体験価値へ



いいだツーリズムビジョン

～誰もが飯田市の自然、伝統、文化、歴史に触れられ、誰もがプレイヤーとして活躍できる地域～

ライフスタイルや働き方、家族の在り方や余暇の過ごし方まで、世界の価値観はこの数年で大きく変わりました。
これまで当たり前と思っていたことを、一度立ち止まって、本当の豊かさとはなにかをみんなが考えたのではないでしょうか。
いま、世界の人々が求めている「観光」とはなにか。

私たちが考える答えのひとつが「人」起点の観光です。
地域の暮らしそのものが目的地になり得る。日常の暮らしそのものが観光になり得る。私たちはそう考えます。

その思いを「滞在交流型観光」「レスポンシブルツーリズム」「サステナブルツーリズム」という言葉に込めました。
地域の日常を求めて人が集まることで、地域の暮らしが豊かになり、また人が集まる。この好循環こそ持続的な地域づくりに必要だと考えます。

もてなす・もてなされる。日常・非日常。のように世界を二分するのではなく、
その「あいだ」があってもいいと思う。「いいだ」だからできる観光をつくっていきませんか？

いい、あいだ。

背景

地域課題

- 人口減少、高齢化、後継者不足
- 空き家の増加、観光施設の老朽化
- 2 次交通・移動手段の不足
- 自然・文化の次世代への継承

旅の行動・意識の変化

- 人に出会う旅
- ニッチ / サステナブルな旅
- 地域経済への貢献意欲
- 観光地化されていない地域への関心

外部・内部環境の変化

- 団体旅行が減少し、個人旅行が増加
- オンライン予約の伸長
- 2 拠点居住・長期滞在の伸長
- 観光と移住の境目が曖昧
- 量から質へのシフト

観光の捉えなおし

- 地域の日常そのものが観光資源
- 人、生活、文化に触れる観光
- 地域全体でのおもてなし
- 観光による地域課題解決

人との交流・暮らしに触れる観光へ

滞在交流型観光

通過型観光や滞在型観光ではなく、地域の文化や暮らしを感じ、交流する、リピートにつながる観光。参画する、役割を担う、協働する、頼り合う、暮らす体験をする。

レスポンシブルツーリズム

観光に関わるすべての関係者が、そのコミュニティの環境、社会・文化、経済へ責任を持ち、関係者が一体となってより良い観光地をつくることを目指すツーリズム。

サステナブルツーリズム

訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮したツーリズム。

VISION
誰もが飯田市の自然、伝統・文化、歴史に触れられ、誰もがプレイヤーとして活躍できる地域

MISSION
稼ぎ、安心して働ける
「魅力ある産業」をつくる

VALUES
地域資源を活用した参加型の
観光コンテンツ開発と地域プレイヤー育成

豊富な地域資源、伝統文化などを未来に保全・継承していくため、中長期の視点で「持続可能な観光地域づくり」を行っていくことが求められています。これまで、当地域の自然や文化を体験してもらう自然体験や農林業体験、農家民泊などの体験型観光に取り組んできました。地域課題や環境の変化に対応し、「持続可能な観光地域づくり」を進めるため、体験型観光に加えて、人との交流や地域の暮らしに触れてもらうことで新たな価値に気づき、来訪頻度を向上させる滞在交流型観光を推進します。

「地域のライフスタイルを体験、経験する＝地元の暮らしそのもの」を観光資源に
レスポンシブルツーリズム × サステナブルツーリズム

1 環境整備から生まれる観光
天竜川鷲流峡では、不法投棄や荒れた竹やぶにより景観が損なわれていた課題を解決するためのプロジェクトを立ち上げました。
竹林整備の呼びかけに地域内外から多くの人が訪れ、伐採した竹でいかだづくりや幼竹によるメンマ製造の体験から地域活性化が進められています。そこで交流が生まれリピートにつながる観光になっています。

2 農山村の暮らし体験
県内外から教育旅行を中心に農家の暮らしを体験する農家民泊に訪れています。農業体験や自然体験は、地域の方がインストラクターとなりますが、その人柄に触れ、普段の暮らしそのままに触れる「ほんもの体験」は好評です。住んでいると気づかない当たり前の日常が観光資源になっています。

3 人のつながりで魅力が増す天龍峡
かつて大勢の観光客で賑わっていた天龍峡を取り戻そうと、観光事業者や地元若手農家の有志などにより新たな誘客イベントやまちづくりが進んでいます。そこには、若者たちが未発掘の魅力を議論し発信することで地域内外の人々が感化され、人と人、人と地域がつながる機会や拠点が増えています。

4 地域の誇り 民俗芸能を継承
人形浄瑠璃や獅子舞、約 800 年の歴史がある湯立神楽「遠山の霜月祭り」など豊かな自然に育まれた生活の中から生まれた民俗芸能が多数存在し、南信州は「民俗芸能の宝庫」と言われています。担い手不足が課題ですが、応援団や助っ人の募集、若者を中心に保存に取り組む団体が立ち上がり継承されています。

5 置いてくるのは足跡だけ！「南アルプスエコ登山」
日本百名山の峰がそびえる南アルプスの自然を保全するためにエコ登山を推進しています。登山者向けに自然環境保全・保護のツアーや携帯トイレの持参を呼びかけます。自然を守りつつ南アルプスの魅力を体験し、環境へ配慮した登山者が増えています。

6 豊かな自然を守り活用する
西部山麓線沿いのエリアには、沢城湖・猿庫の泉・大平宿・風越山・野底山など観光資源が点在しています。そこからの眺望は、南アルプスの山並みや市街地が広がっています。眺望と地域資源を活かした体験学習やツーリズムのための環境づくりを地域や多くの方に関わってもらい進めます。

7 「みる・演じる・支える」で参加する人形劇の祭典
いいだ人形劇フェスタは、こどもから大人まで幅広い世代が関わり支え参加する祭典です。期間中は、地域の公民館や学校などいたるところで上演され、世界中から多くの人が訪れます。1979 年に始まった人形劇カーニバル飯田から続く歴史の中で、こどもの頃に観た親が自分のこどもと一緒に観劇する姿も見られます。

8 桜守がつなぐ日本一の一本桜の里
全国に 4,000 本ある一本桜のうち、南信州には 289 本があると言われています。樹齢 300 年以上の桜が 80 本以上あるのは日本ではここだけ。
「桜守」と称する案内人がガイドする「桜守の旅」は春の観光の代表です。桜守のガイドによる満足度と、ガイド料には保全料を含んでいるため次世代に残す活動につながっています。

9 地形を活かしたサイクルツーリズム
自転車の国際ロードレース TOJ の開催によって、自転車のまちとして知名度をあげています。
世界屈指の高低差、目の前の絶景、地域密着型の特徴あるステージです。こどもの頃の観戦がきっかけで、レースに出場した選手も誕生。自転車に乗って地域の魅力に触れてもらいます。

10 飯田のシンボル「りんご並木」
「りんご並木」は、昭和 22 年に発生した飯田の大火の後設けられた防火帯に、飯田東中学校の生徒により、「真っ赤なりんごが実っていても誰一人盗む人がいない心の美しい人たちの住むまちにしよう」として植えられた復興のシンボル。いろいろな人たちが関わって飯田のシンボル「りんご並木」を守っています。